

「生命尊重」の町

地域が支える西和賀の教育

西和賀町教育委員会 教育長 柿崎 肇

1 「結」の町、西和賀

西和賀町（平成17年に湯田町と沢内村が合併）は岩手県と秋田県の県境にある町です。人口減は続くものの国の

自然環境保全地域や国定公園に囲まれた豊かな自然と温泉に恵まれ、多くの方々に訪れて頂いている観光の町です。

そして、私たちの誇りにもなっているのが、日本で初めて乳児死亡率0（ゼロ）を達成した深澤晟雄村長の掲げる「生命尊重」の理念です。この理念の下、地域医療の充実や農林業を基幹とする産業に力を入れるとともに、「雪の深さが人情の深さ」の言葉通り「結」の精神が息づく福祉の

町です。

2 生きる力の礎

【教育の位置づけ】

「第2次総合計画」の教育文化分野の目標

「地域に誇りを持ち、豊かな心を育てる町」として、確かな学力を中心に据えつつも

地域と共につくる豊かな心の教育に力点を置く町の教育を推進しています。

人生100年時代。世界がどのように変化しても「生涯の地に誇りを持つ心」は、大地にしっかりと根付き、迎える未来を生きる原動力になり

ます。各学校とCS、そして「教育振興運動推進協議会」とその7つの実践班が中心となり、町民を巻き込んだ教育に取り組んでいます。

【町全体がキャンパス】

↓支える組織

- ① ジョイントスクール
- ② 学校保健会・病院
- ③ 雪国研究所・自然環境センター
- ④ 社会福祉協議会
- ⑤ 深澤晟雄の会・ぶどう座
- ⑥ ユキノチカラプロジェクト
- ⑦ アースコネクト 等

↓教育活動

- ① 保・小・中・高が集いより良い学びと生活改善研究
- ② 「自分の健康を自ら守る子」の育成

③ 地域の自然についての知識と自然体験

④ 福祉作文と体験・ボランティア支援

⑤ 「生命尊重」に係る学びと演劇活動

⑥ 全県で活躍する方々との新たな価値ある商品開発

⑦ 稲作づくりを中心とした農業体験

このように町全体がキャンパスとなり、多くの本気の大人との知的交流が実現し、児童生徒の生きる力に「火」をつけて来ています。

3 小中一貫教育の推進

令和5年度には町の「保育、学校教育のあり方検討委員会」を発足し、これからの教育のあり方について検討しました。結果、湯田・沢内それぞれの地区において小中の一貫教育を進めることと方向付けました。

これからさらなる魅力ある

学校を構築し、他地域からの児童生徒も受け入れる「教育留学」の実現と地域の方々の学びの場としていきます。沢内地区では令和10年度新校舎完成を目指し取り組んでいます。

4 「学び・生き抜く力」を育む西和賀高校

【三者の役割と連携】

〈高等学校〉
・先生や生徒の良好な関係のある環境

・少人数指導及び習熟度別の学習保障

・探求の時間及びボランティア活動が充実

・国立公立大等への進学及び丁寧な就職指導

・多くのゲストティーチャーを招いた授業と交流 等

〈町の支援〉

- ・学校と信頼ある連携
- ・生寮の整備と補助
- ・無料公営塾（大学進学・授

- 業補完)と模試・検定試験補助
 - 通学支援(バス無料・J.R定期券補助)
 - オーストラリア研修
 - 昼食支援
 - 中学校等への広報活動等
 - 〈地域〉
 - 町の資源を活用した体験の提供
 - 学校・地域行事への関わりと生活(寮生活も含む)支援
 - 高校魅力化コンソーシアムの推進等
- 三者が連携し、豊かな教育が展開される学校となっております。結果、国立大学への進学も多数でています。

【地域を超えた学校】
 このような教育で自分磨きをしたいと今年は県内から定員を超えた志願者が集まりました。さらに「西和賀ふるさと留学生」(県外)として関東圏を中心に志願してくれました。

令和7年度からは
 ・「個に応じた対応」
 ・「地域を支える」
 ・「四季ある豊かな自然の中で学ぶ」

を掲げる西和賀高校が、県教委をはじめ多くの方々の協力により定員80名の2学級校となります。生徒達にとっては「これから生き抜く力」を育てる小規模の学校として育てていきたいと考えています。

5 終わりに

体験・経験から誇りを創る西和賀の教育(総合編)

地域のワクワクを学びに

<p>偉人 産業 自然 文化 国際 ...</p>	<p>深澤晟雄 ・生命尊重の精神を学ぶ 林業/農業 ・育てる・収穫・交流 地下資源 ・鉱物発見と標本づくり 地域演劇 ・中学生演劇 JICA交流 ・世界の課題 議会提案等</p>	<p>【保育所・園】 ・5感を育む ・気持ちを言葉へ 【小学校】 ・体験活動重視 ・調べ方を学ぶ 【中学校】 ・追体験から経験 ・課題の発見 【高等学校】 ・課題解決提案 ・コミュニケーション スキルの向上</p>
---	---	---

「探究カレンダー」
 春 夏 秋 冬

魅力発見ラボ

プロフィール



柿崎 肇
 (かきざき はじめ)
 旧大東町の大原中学校の教員としてスタート。平成19年度全中バレーボール大会事務局、平成21/22年度宮古市PTA連合会事務局、遠野中・江釣子中校長を経て令和2年度より現職。

西和賀町議会定例会より No.77 R7.1.15

少人数・小規模だったから今の僕がいる

山崎 虹誠さん
 西和賀町生まれ。西和賀卒業生。留手大学人文学部社会学専攻に在学。現在は卒業論文執筆に向けて準備中。

僕は盛岡駅前のお酒場でバイトしていますが、店長から「西高、定員が増えるらしい」と教えられて、驚きました。生徒数が増えでも、小規模教育の良さを持てたければ、よりエネルギー的な学校にならなくてはなりません。

大学に進学してから、西和賀の教育は「自分はどう考えるか」「どうしたいか」という主体性を育てるものだったと感じました。たぐさんの同世代に出会いましたが、問題にぶつかるときに、「まあ、いっか」と解決を先送りする人や、思考停止してしまう人が結構いるからです。

西高では問題解決のための思考力も鍛えられました。「総合的な探究の時間」では、はっきりとした答えがない中で、仮説を立てて、手探りで少しずつ前に進んでいく問題解決のやり方を身に付けられました。志望校から逆算して、まずは自分で勉強の計画を立てるという道徳指導でも、自主性を育ててもらいました。

大学では過疎地域に関する授業も受けています。「関係人口を増やして地域を盛り上げる」という話もあれば、無理やり存続させるのではなく、弊害のある集落の閉じ方を模索する話も出ます。

同じ規模の地域の話では、自然と西和賀を離れて考えます。自分が生まれ育った町だから帰省すれば落ちつく、これからは何らかの形で町に関わりたいたいと思うながら、今だからできることに向き合っていて、帰郷を願っているつもりです。